

抄 録

脊髓癆ト「サルワルサン」

(V. Vittek, 5. Kongress tschechischer

Naturforscher u. Ärzte 1914.)

四十五歳ノ一男子、非常ニ強度ニシテ險惡ナル刺鎗狀疼痛ヲ屢々病ム、二十年前ニ微毒ヲ經過ス、一年前ヨリ歩行困難トナリテ唯杖ニ倚リテ歩行シ得ルノミ、ワッセルマン反應ハ強度ニ陽性、其後患者ハ一回ノ「サルワルサン」筋肉内注射ヲ受ク、該注射ニヨリテ疼痛消散シ患者ハ杖ヲ用ヒズシテ歩行シ得ルニ至レリ。

九箇月後ニ疼痛再ビ發來スルヤ單ニ瓦爾華尼電流ニヨリテ暫クノ間抑遏セリ、終ニ方策盡キタリシガ著者ハ當時ワッセルマン反應陽性ニ際シテ尙ホ一度「サルワルサ

ン」〇・三瓦ヲ靜脈内ニ注射シタリ。

其ノ結果ハ良好ニシテ疼痛ハ卒然ニ消散シテ最早再發セズ、歩行障礙ナシ。(三藤香吉抄)

麻痺狂ノ「サルワルサン」療法

(J. Jansky, 5. Kongress tschechischer

Naturforscher u. Ärzte 1914.)

著者ハ五〇立方糶ノ蒸餾水ニ溶解シテ滷汁ヲ以テ中性ニナシタル「サルワルサン」又ハ一五乃至二〇立方糶ノ蒸餾水ニ溶解シタル「ネオサルワルサン」ヲ靜脈内ニ注射セリ、凡テノ患者ハ本劑ノ大量ニヨリ堪ヘ得ルモ唯一回發熱セリ、尿ニ蛋白ヲ證明セズ、重キ兆候ヲ呈セル患者サヘモ何等ノ副作用ナクシテ非常ナル大量ニ堪ヘ得、四例ヲ處置シタリシガ本治療ノ結果ハ何等得ル所ナシ。

第一ノ患者ハ或ハ偶然ノコトナリシナランモ極メテ少

量ニヨリテ若干ノ輕快ヲ覺エ、第二ノ患者ハ一〇瓦(二箇月ノ經過中ニ)ニヨリテ唯數日間ノ持續シタル全癒ヲ得タルノミ、自餘ノ二例ニツキテハ全ク何等ノ變化ヲ認めズ、各例ニ於テワッセルマン反應ハ陽性ナリ、著者ハ腦脊髄液ノ病的狀態ノ主要ナル治癒ヲ認めズト。

(三藤香吉抄)

破傷風ノ興味アル一例

(V. Stransky. Prager med. Wochenschrift

1915 Nr. 19.)

十四歳ノ一童兒、上肢ニ裂挫創ヲウケテ後約三週ニシテ破傷風ノ症狀ヲ呈セリ、患肢ハ持續性ニ破傷風様攣縮ヲ爲シ且コノ攣縮ハ睡眠中ニモ持續セリ、破傷風抗毒素ハ奏效セズ、コレニ反シテ二瓦ノ抱水「コロラール」ト一瓦ノ阿片丁幾トヲ以テセル灌腸ニヨリテ安靜トナレリ、

十日ノ後ニ治癒ノ初徴現ハレ第四週ノ終ニハ家庭内ノ看護ニウツス且總テノ症狀ハ一患肢ノ伸展攣縮マデモ一消失セリ。(三藤香吉抄)